

## 第2回 NEXCO中日本における降雪時の対応に関する検討会

### 議事要旨

1. 日時 令和6年5月30日(木) 10:00~12:00

2. 場所 TKP東京駅カンファレンスセンター8階 ホール8A (WEB併用)

3. 出席者(五十音順、◎は座長)

佐々木 邦明 早稲田大学 理工学術院 教授

佐藤 豊 気象庁大気海洋部 気象リスク対策課 課長

中村 一樹 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター センター長

◎ 藤本 明宏 福井大学 大学院工学研究科 安全社会基盤工学専攻 准教授

オブザーバー 関係機関

4. 議事要旨

(1) 名神(関ヶ原地区)を対象とした対応策(案)

○第1回検討会で確認した「検討の方向性」を踏まえた対応策(案)について確認した

(2) 名神(関ヶ原地区)における通行規制基準等設定の考え方(案)

○名神(関ヶ原地区)における過去10年間の降雪時の通行止めやスタック発生事例及び強降雪事例における路面状況や降雪量並びに気象特性を整理のうえ設定した「通行規制基準設定の考え方(案)」と「要員等の前進配置基準の設定の考え方(案)」を確認した

(3) 今後の検討内容とスケジュール

○今後の検討内容とスケジュールを確認した。

(3) ご意見等

○出控え広報を実施しても小型車の交通量は減少するが、大型車の出控え効果は低い。大型車の場合、運転手の判断よりも荷主企業の判断が重要になっているので、荷主企業への訴求は重要

○布製チェーンや手押し型小型ロータリーなどは、実際に使用できるよう訓練しておく必要がある

○CCTVカメラの自動検知については車両の異常だけでなく、路面状態の判定などへの活用も検討するとよい

○ハード対策で凍結防止剤の散布能力向上策があるが、凍結防止剤は、除雪後の路面凍結を防止するものである。気温・路温が低い場合は、凍ってしまった事例もあるので、運用に当たっては注意が必要である

○スタック車両や滞留車両の救助時間を更に短縮することが必要。このため救援車両の配置、中央分離帯開口部の増設、資機材の配置など工夫すべき

○専門知識の向上や教育では、現場の対応に関することも実施が必要である。また、気象に関する知識向上では、气象台と意見交換することも有用である

○高速道路における通行止めは、車両が国道や県道に流出していくことになり、また滞留車両が発生した場合は関係機関を巻き込みながら進めていく事になるため、関係機関とのリアルタイムの情報共有や、事前の調整を行うべきである。

○予測値と実況値のうち、実況値の数値が非常に重要になる。強降雪時は、降雪量計への着雪等も考えられるので、降雪量計そのものの監視も重要

○通行規制基準設定の考え方については、統計学的な根拠の基で数値を示すことが必要。また、継続的にデータ蓄積を行い、ハード対策の整備状況を踏まえた基準の見直しを適宜行っていくことが必要である

以 上